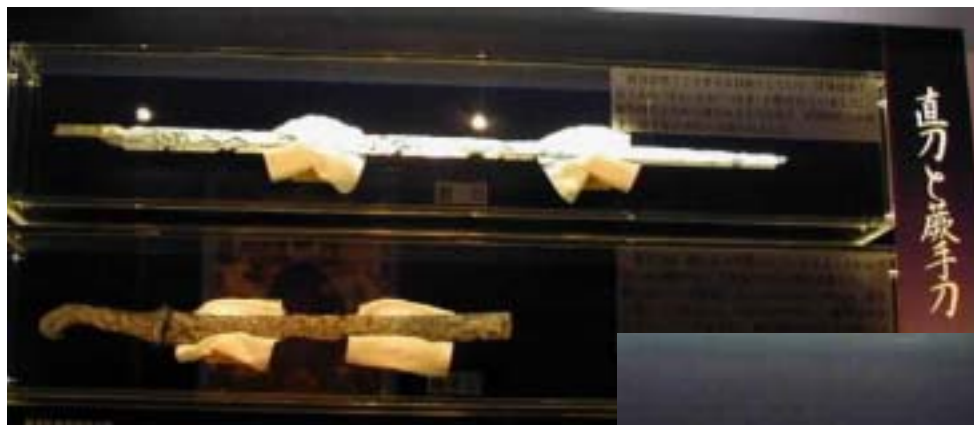


Iron Road 和鉄の道 『和鉄の技』



高度な熱処理による脱炭表面処理がなされた中国製の古代 铸造鉄斧



日本刀の源流

「蕨手刀」から「舞草刀」へ



舞草鍛冶の活動

奥州の月鍛冶は、月のきたえ方や使いやすさをさらに求めていきました。
蕨手刀の柄を長くくりぬいても板形蕨手刀をつくり、やがて長くて幅づくりの薄刀・毛板形太刀に発展させたのです。この毛板形太刀は、部では直刀の正型に変わりました。今では、この刀が日本刀成立直前のものであるとされています。このような月の変化に大きくかわったのが奥州舞草に仕込んだと伝えられる舞草鍛冶と考えられます。

接合・接着のルーツ 赤漆・アスファルト 「発掘された日本列島 2001」展より



縄文の赤漆と天然アスファルト塊



赤漆での修復痕跡のある土偶

日本古代から脈々と続く大木の加工技術

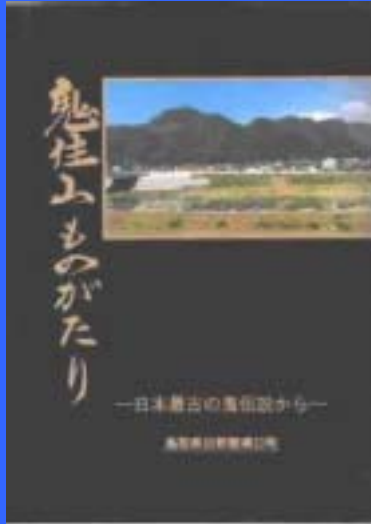


天空にそびえる古代出雲大社(推定模型)とそれを支えた宇豆柱の発掘

日本各地の鬼 & 鬼伝説

1. 伯耆国 鳥取県 溝口町 孝謙天皇 鬼退治伝説

楽楽福神社の伝承



伯耆国 溝口 鬼住山の鬼

伯耆大山山麓 溝口

2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」

東北・北上地方 多賀城・胆沢城・秋田城遺跡



3. 丹後国 大江山酒天童子伝承

京都府 大江町



4. 吉備国 「桃太郎伝説」の鬼城 99.5.29.

「真金吹く 吉備の中山・・・」と歌われた吉備は 古代製鉄の発祥の地の一つ
現在の総社市を中心とした吉備地方には古代遺跡・古代製鉄遺跡が目白押し
この地には「桃太郎」伝説の源流「ウラの鬼伝説」と「鬼城」の遺跡がある



総社市郊外にある「鬼城」遺跡 99.5.29.



古代遺跡が広がる吉備国 ー鬼城からー



「桃太郎」伝説の吉備津彦神社

5. 青森県 岩木山 (巖鬼山) 山麓の鬼伝説

青森県 弘前市・鱒ヶ沢町

1. 巖鬼山の鬼伝説が広く伝承される鱒ヶ沢



岩木山 北麓赤倉口より



鱒ヶ沢へ流れ下る赤石川



岩木山北麓 十腰内 原生林の中 巖鬼山神社

2. 鬼神社と鬼沢の鬼伝承

弘前市鬼沢



鬼沢 鬼神社に掲げられた鎌等の鉄製品の献

古代 和 鉄 の 歴 史

BC 800	600	400	300	200	100	0	100	200	300	400	500	600	700	800	1000	1500	
▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	
縄文晩期			弥生前期			中期		後期	古墳前期		中期	後期	飛鳥	奈良	平安		室町
【鑄造破片再生の時代】							【本格鍛冶の時代】					【鉄の量産化の時代】↑					
日本古代 和鉄の歴史							【原始鍛冶の時代】			【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】							
							【鍛打伸展鍛冶の時代】					【鉄の多様化の時代】					

1. 縄文晩期～弥生前期 紀元前2世紀～紀元1世紀 【鑄造破片再生の時代】

中国・朝鮮半島との交流は縄文時代晩期には既に始まっており、中国にその起源をもつ鉄器が日本に現れ、その後弥生前期には中国で製造された鑄物製の鉄斧などの破片を日本で割るなどの再加工して使用する事が始まる。

2. 弥生時代中期～後期 紀元1世紀～3世紀初頭 【原始鍛冶の時代】

薄く板状に鑄込み表面脱炭去れた素材が日本に持ち込まれ、曲げなど簡単な鍛冶が行われるようになる。

3. 弥生時代後期以降～古墳時代中期 2世紀～4世紀 【鍛打伸展鍛冶の時代】

中国では脆い鑄鉄鑄物ばかりでなく、鉄鉱石を低温還元焼成してつくられた塊状錬鉄が得られるようになり、脱炭鑄鉄と同時に日本にこれらが持ち込まれるようになり、これらを素材とした鍛錬加工(原始鍛冶)がスタートし、次第に本格鍛冶へと移って行く。

4. 古墳時代初頭以降 初期～中期 3世紀後半～5世紀 【本格鍛冶の時代】

大陸では塊状鉄精錬が本格化し、鍛冶材料として広く流布。朝鮮半島でもこの塊状鉄精錬がスタートしたと見られるが、はっきりしない。

この当時 半島朝鮮半島の南部辰韓・加耶と倭国との交流が始り、4世紀半ばには加耶が鍛冶加工された薄い鉄板(鉄)の供給基地として登場し、渡来人の交流と共に大量の鉄が鍛冶原料として持ち込まれるようになる。当初3世紀には北九州に限られた鉄の先進地が5世紀には瀬戸内・出雲・吉備・畿内へと東進してゆく。この間日本に於いてはこれら朝鮮半島から持ち込まれた鉄と共にこの鍛冶・加工に使った鍛冶炉跡や鍛冶滓が大量に見つかるようになる。

5世紀後半になると畿内には大泉遺跡のような大規模な專業鍛冶集団が生まれて勢力を伸ばす。

5. 古墳時代中後期～飛鳥・奈良 5世紀末～8世紀 【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】

その始りはまだはっきりしないが、5世紀末から6世紀初頭にかけて 鉄鉱石原料とした箱型炉による製鉄精錬が日本国内(吉備)で始り、鉄素材の自給が始まった。また 国内に大量に存在する砂鉄を原料とした精錬も始り、日本での鉄自給の波が西国から東へ広がって行く。

7世紀末から8世紀には現在の福島県原ノ町近傍(行方製鉄遺跡)まで広がりさらに、9世紀には青森岩木山北山麓での製鉄が確認されている。

6. 奈良・平安時代 8世紀～11世紀 【鉄の多様化の時代】

竪型炉が関東・東国に出現し、大型の箱型炉や鑄物遺跡の出現など鉄生産が日本全国におよび、鉄生産の多様化が進む。本格的な鑄物生産がはじまり鉄の多様化がはじまる。

7. 中世 15世紀以降 【鉄の量産化の時代】

高殿たたらが鉄山経営として成り立ち 出雲など中国地方の生産が他を圧倒して行く